

2009 5/17

水子供養をめぐる諸問題

清水邦彦

金沢大学人間社会学域国際学類日本・日本語教育コース准教授
文学部併任

水子①出産後、あまり日のたたない子。あかご。

②流産・中絶によって亡くなった胎児 *広辞苑を一部増補・改編

1.私の略歴

1985年 学習院大学文学部哲学科入学

東京都立板橋高校での卒業論文「加藤弘之」であったため
戦前（旧制高校の頃）、西田幾多郎・鈴木大拙が教える

日本人の思想を考えたかったのだが、、、

哲学ではなく、哲学学 哲学史学？ 西洋哲学中心

脳死や妊娠中絶（＝生命の誕生）などにも興味はあったけど

cf.和田移植 1968 臓器移植法 1997

美術史もあったが 小林忠先生・浮世絵

正法眼蔵ゼミの所属 悟りとは何か？ 自分を含め、日本人に縁遠いもの
結果、日本人にとっても最も親しいカミである地蔵を研究テーマに

1989年 筑波大学日本語・日本文化学類研究生*要は大学院浪人

卒論がまとまらなかったため（ということにしておいてください）

1990年 筑波大学大学院日本文化学際研究カリキュラム入学

1998年 筑波大学助手 *現在の助教

1999年 金沢大学文学部助教授

2.水子地蔵研究の端緒

1975年頃 東京都練馬区江古田斎場に水子地蔵、祀られる 赤い旗

1985年頃 テレビ番組「おれたちひょうきん族」にて水子を取り上げられる

この頃、漫画「安穩族」にて妊娠中絶を題材とする 芥川龍之介「河童」を基

1989年、国会図書館にて地蔵関連の論文を全て読む

書き直しの卒論のテーマは日本古代の地蔵信仰

水子地蔵という名称（柳田国男の云う地蔵の苗字）の発生は 1975年頃か？

最古の水子地蔵 京都化野念仏寺 1970年建立

宮田登 1993 「「水子霊」の復活」『「心なおし」はなぜ流行る』小学館 *初出 1990

森栗茂一 1995 『不思議谷の子供たち』新人物往来社

1993年島藺進先生（東大教授）の集中講義に出席 課題レポート提出
→清水邦彦 1994a 「昭和45年以前からの水子供養」『西郊民俗』第148号
趣旨：昭和45年（＝1970年）以前から「水子供養」は存在したが、今日の水子地蔵を中心とした水子供養とは別物である・水子地蔵は1975年頃より発生
←鳥井由紀子 1994 『水子供養』研究動向（1977-1994）と『水子供養』関連文献目録（『東京大学宗教学年報』第7号）では、清水1994aを「古くからの水子供養と今日の水子供養とを区分していない」と批判しているが、題名からくる誤読

3. Lafleur "Liquid Life" 1992 との出会い

（→森下直貴・遠藤幸英・清水邦彦・塚原久美訳 2006 『水子 <中絶> をめぐる日本文化の底流』青木書店）

なぜ Life なのか？ 大きな和英辞典では **aborted child**

Child を殺すと問題である・日本では胎児を曖昧に捉えている

アメリカ合衆国に於ける中絶論争 新しい内線・大統領選の論点 ビデオ・史料1

1973年 ロー判決：妊娠中絶の合法化

cf. 1949年優生保護法（現・母体保護法）に経済条項追加

緒方房子『アメリカの中絶問題－出口なき戦争』2006年

これに対し日本では曖昧な形で論争を避けている 史料2

内容要約 史料3

"Liquid Life" 1992 の意義 水子供養の本格的な研究書、第1号

千葉徳爾・大津忠夫 1983 『間引きと水子』農山漁村文化研究会

森栗茂一 1995 『不思議谷の子供たち』新人物往来社

"Liquid Life" の紹介・書評として→清水邦彦 1993 「間引きの心意 "Liquid Life" を手がかりに」日本宗教学会口頭発表→清水邦彦 1994b 「水子について」（『比較民俗研究』第9号）

4. 日本仏教研究会（現・日本仏教総合研究学会）より原稿依頼

清水邦彦 1996 「水子供養」（『日本の仏教』第6号 法蔵館）

前近代の水子～弱々しい存在（賽の河原和讃）＝崇らない

供養は簡素に行う 生まれ変わりの思想

現代（1975～）の水子～強烈に崇る 戒名を付ける等大人と同等の供養

この変化はなぜ起きたのか？

前近代の胎児～母胎にいる神秘的な存在 胎内図では仏・菩薩の姿で現される

現代の胎児～エコーにより、見える存在・性別が分かる

胎児の人間化＝その「死」は供養すべきもの

供養しないと崇る（異常死の対応）

*子供の死が異常事態

→水子供養は医学の発達により生じた

←脳死も同様 昔も脳死はあったが、すぐに心臓死となった

人口呼吸器の発達→脳死の長期化

移植技術の発達、拒絶反応を抑える技術の発達

5. "Liquid Life"批判

Hardacre 1997 "Marketing the Menacing Fetus in Japan"

*menace 威嚇する・脅かす *fetus 胎児

水子供養は癒しではなく、女性の弱みに付け込む商売である 史料4

確かにそうした一面もあるが、水子供養が日本に定着した要因も考えるべき

6. 水子供養の海外進出

韓国 淵上恭子 1996 「韓国仏教の〈水子供養〉」(『平和と宗教』第16号)

淵上恭子 2002 「韓国仏教の〈水子供養〉」(『宗教研究』第333号)

背景：男性優位社会 男系！ 淵上恭子 2009 『バイオコリアと女性の身体 ヒトクローンES細胞研究 卵子提供の内幕』勁草書房

台湾 Moskowitz 2001 "The Haunting Fetus : Abortion, Sexuality, and the Spirit World in Taiwan" *haunt 出没する

タイ Rantanakul 1999 `Socio-Medical Aspects of Abortion in Thailand` Keown "Buddhism and Abortion"

アメリカ Jan Chozen Bay 2002 "Jizo Bodhisattva : Modern Healing and Traditional Buddhist Practice" (地藏菩薩—現代的癒しと伝統的仏道修行)

アメリカ禅宗寺院における水子供養

*アメリカに禅宗を広めたのは鈴木大拙である

*同書によると、アメリカに地藏信仰を広めたのも大拙らしい

これらの背景 医学の発達→中絶の安全性 宗教の歯止めが強い・習合現象

付記

史料1 荻野美穂『中絶論争とアメリカ社会』(2001 岩波書店) p.287

史料2 Liquid Life 原著の表紙写真

史料3 毎日新聞 2006年2月12日掲載 『水子』書評 田中優子・筆

史料4 Hardacre 1997 "Marketing the Menacing Fetus in Japan" p.86